

11月9日 2013年 11月9日

22年後…おひとりさま4割？

国立社人研が推計

家族類型の割合の変化

The Asahi Shimbun
数字は%。国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」

	単独	夫婦のみ 夫婦と子	ひとり親と子 その他
1980年	19.8	42.1	19.9
2010年	32.4	27.9	11.1
2035年 (推計)	37.2	23.3	6.9

一人暮らしの世帯が2035年には4割近くに達する——国立社会保障・人口問題研究所は18日、そんな将来推計を公表した。80年代には約4割を占めた夫婦と子どもの世帯は全体の4分の1まで減る見通しだ。

世帯総数は10年の5184万世帯から19年には5307万世帯まで増えるが、その後は減少。35年には4956万世帯まで減ると見込まれる。

総世帯数が減るなかで、増えるの見込まれるのが一人暮らしの世帯。晩婚化や未婚化が進むとみられるた

めで、1678万世帯(10年)から1846万世帯(35年)に増える。全世帯に占める割合も32%から37%に高まる。一方、夫婦と子ども世帯は、1447万世帯(28%)から1153万世帯(23%)に減る見通しだ。

世帯主の年齢別で見ると、65歳以上の高齢者世帯の増加が際立つ。10年の1620万世帯から35年に2021万世帯に急増。高齢者世帯の中でも、最も増えるのは一人暮らし世帯。10年の498万世帯から35年には762万世帯と1.5倍になる。(見市紀世子)

43119